
冬恋詩

都築景斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬恋詩

【コード】

N2810D

【作者名】

都築景斗

【あらすじ】

雪をテーマにした、ある青年の失恋話っぽい恋歌

(前書き)

詩とも小説ともつかないものです
こんなありえねえ、とおもっても厳しく突っ込まないでいただけ
ると嬉しいです

ハラハラと、

白い白い雪が音もなく舞い踊る

誰もが家族と、恋人と楽しげに笑いあうそんな通りの中、俺は一人立ちすくむ

遠ざかっていく君を追い掛けなければ、手を伸ばさなければ…

そう、思うのに…なのに俺は雑踏の中に立ちすくんだままで

たった一言の

「別れよう」で全てを拒否されたようで苦しくて、途方もなく苦しくて…

なあ、どうして理由も言わないで行ってしまっただい？

なあ、俺の何がいけなかつたんだい？

なあ、俺は君の事を誰よりも愛しているのに

どれだけの事を思っても、もう君に届くことはなく…

ただ去っていく君の後ろ姿を見つめ…雑踏の中に消えていくまで見るだけで

ああ…

そんな、形にならない音が口からもれた

君が前に降りそそぐ雪を綺麗と言っていたから、今日は君も笑っていてくれると思ったのに…

目に焼き付いているのは、君が見せた泣き顔で

なあ、泣くなよ

悪いのは君じゃなくてきつと俺なのだから

ポケットに冷えた手を突っ込むと、固い物が指先に触れた

ああ、ようやく思い出したが…今日はコレを渡しに来たのだったもう、君に渡すことは出来ないけれど

なあ、この指輪は、君に送る為に決心と共に手に入れたんだぜ…この指輪と告白は
取り出しかけた小さな箱をポケットに戻して、歩き出す
ああ、きつと一人雪を目にする度にこの想いを思い出すのだろう
君の言った通り…舞い踊るように降りそそぐ雪は綺麗は綺麗で…
はあ、と白い息を吐きだし、歩き出す
先ほど見えていた君の後ろ姿に、楽しげな人々に背を向けて

さようなら

君が最後に俺に放った言葉が染み渡るように胸に広がっていく
さようなら、か……
ふと立ち止まり、ハラハラと降りそそぐ初雪を見上げる
見上げた空には厚い灰色の雲と舞い踊る白い白い雪が

「 幸人さん? 」

呼び掛けられた声に振り向くと、彼女が鼻を赤くして不思議そうに俺を見ていた。

なんでもない、と俺は首を振る。

どうやら雪を見ている内に三年前のことを思い出していたらしい。

「雪、綺麗ですね。私、こうして雪の日に好きな人といるのが、夢だったんですよ」

彼女がにっこりと笑いながら言う。手袋をつけてない手を空に翳して。

それはよかった、と俺は彼女に微笑みかえす。

なんとなく、だけれども彼女の手に自分の手を重ねて…握る。自分でやっという何だが、照れくさくて顔を背ける。

彼女の手が俺の手を握り返してくる。

その手には、つい先ほど渡したばかりの指輪がはめられていて…。

君も今、誰かところろして雪を見ているのだろうか

もう二度と言葉を交わすことはないだろうが、君が幸せであればいいと思う

もったも、君にフラれた俺が言うことではないだろうが………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2810d/>

冬恋詩

2010年10月17日08時04分発行